

# 第一礼拝次第



< 卷頭言 >

説教: 渡真利彦文牧師 司会: 倉成桃子執事

「罪を赦し、病を癒す主」  
牧師 渡真利彦文

前奏		
頌栄	540	会衆
主の祈り		〃
プレイズ	「どんな時でも」 「イエスは愛で満たす」	〃
聖書朗読	マルコ2:23~3:6	司会
祈禱	(新約聖書 p 64)	
賛美	55	会衆
説教	「安息日の意義」	牧師
祈禱		
賛美	新生360	会衆
聖餐式	#	
献金		
報告		司会
頌栄	新生672b	会衆
祝禱		牧師

♪~♪~♪~♪~♪~♪~♪~♪~♪~

## 第二礼拝次第 (19:00)

説教: 渡真利彦文牧師

司会: 羽地愛作兄 奏楽: ラスマッセン・道姉

聖書: マルコによる福音書 10:35-45  
(新約聖書 p 82)

メッセージ: 「ヤコブとヨハネの願い」

プレイズ: 「この日は主が造られた」

「小羊イエスよ」

讃美: 新生292 新生218

♪~♪~♪~♪~♪~♪~♪~♪~♪~

## ファミリー礼拝 (9:00)

説教: 渡真利彦文牧師

聖書: マタイ 26:36-46

メッセージ: 「共に目を覚ましてほしい」

マルコ福音書1章から2章にかけて、癩病と中風と二つの困難な病気を持つ人を、主イエスが癒された出来事を記しています。こうした難病に限らず、すべての病気や障害は悪霊の仕業だと考えていた2000年前の人々に対して、主イエスは「悪霊を追い出す」力を示し、また弟子たちにもその権威を与えられました。

現代の人々はこうした病気は医療技術や薬品が治癒させるのだと考えています。しかし一方こうした病気を罪の結果あるいは神に見放されたことによるのだと考えて悩み苦しむ人々や、疎外されている人々もいました。これらの人々に対しては、主イエスは治癒と共に赦罪の宣言を与えられました。

主イエスは「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」と言われるのです。罪とは人を神から隔離する壁のようなものです。

確かに中風の友人を見捨てず、彼を戸板に乗せて主イエスのもとへ運んできた人々の友情や好意は素晴らしいものです。しかし彼らの厚い友情にも関わらず遅れて来た時に、主イエスのおられる家の中に入れてくれないのが厳しい現実の姿です。彼らは待ちきれなくて屋根に登り、天井を壊して病人をつりおろしました。

しかし、中風を癒したのは友情でも緊急避難的な愛の行動でもありませんでした。主イエスは「子よ、あなたの罪は赦された」と宣言され、この主の癒しの招きによって中風の人が癒され、交わりに復帰することができました。